



TAKUMA MASASHI TSUSHIN

たくままさし 通信(三豊市版)

第17号

2017年(平成29年)6月発行



住民の皆様
お気軽にご意見を
お聞かせください。

志保の会

【連絡先】

〒769-1507 三豊市豊中町岡本270

0875-56-6113

0875-62-5914



[Blog] www.8108.jp

「水族館を核としたにぎわい創造事業」への 参加表明がなく、計画は白紙に!!

三豊市が、3年前の平成26年9月に1億円で民間金融機関から取得した「讃岐造船鉄工所跡地」(24ha)における「水族館を核にしたにぎわい創造事業」への、民間事業者からの参加表明書は、受付締切日である本年5月9日までに申し込みがありませんでした。これにより、民間投資による水族館建設計画は終了することとなります。三豊市が、この計画に着手した時から、屋島水族館の再開の決定や、宇多津町の計画が具体化するなど、水族館事業をとりまく環境は激変

しました。このような状況の中で、民間事業者の参加意欲にも大きな影響があったのは確かです。

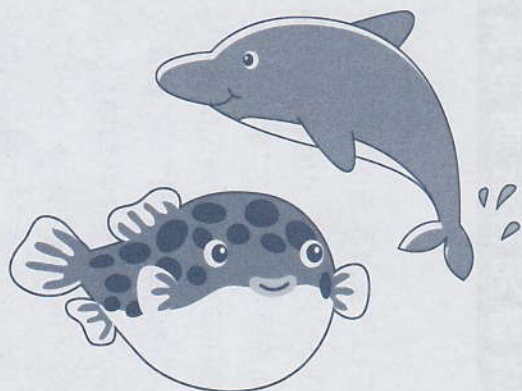
市の方針として、今後の「詫間港周辺地区にぎわい創造事業」は、水族館を「必置」としない事業として、新たなにぎわい創造に向け、継続して取り組んでいこうとしています。

これまでに投入した費用は1億8,700万円です。内訳は、用地取得…1億円、建屋解体…4,930万円、コンサル料…3,300万円、他となっています。

現在、この場所は、市が取得したことで公有地になっていることから、県事業として防波堤を含む護岸建設工事が、平成31〜32年の完了予定で進められており、水族館建設計画の有無に関係なく地域の安全対策は計画通り進んでいくものと思われれます。

これまでも「水族館を核にしたにぎわい創造事業」に対して、市民の皆さんから、非日常的な施設ではなく、生活にもっと身近な、日々の暮らしに必要な施設整備の意見を多くいただきました。今一度

立ち止まり、このまちにとって、本当に必要なことは何かという原点に立ち返り、思考を深めていかななくてはならないと考えています。



三豊市の課題は全国の課題。

地域内分権への挑戦

いち早く着手して
改善したい。

2017年3月

〔議会一般質問報告〕

1 公民館と図書館の連携による地域コミュニティ二テーパー拠点の充実について

質問

三豊市では、地域内分権への挑戦が進められており、まちづくり推進隊のNPO法人化など、地域性を活かした活動が展開されている。一方、地域活動拠点ともいえる支所の市民センター化や地区公民館・図書館の利用には、なお一層の工夫が求められる。アンチコンパクトシティーを目指す三豊市としては、地域活動拠点のあり方はまちづくりの重要な課題だ。

地域拠点となるのは行政的役割の支所と、市民の日常の活動に身近な公民館と図書館がある。平成29年度施政方針にある「多極分散型田園都市」をどのような施策をもって実現していくのかについて、現状と今後の計画を問う。

答弁

三豊市は、コンパクトシティーは目指さず、このまちの持つ豊かな自然と共生して、広くゆったりと暮らすライフスタイルの田園都市を目指してきた。住み慣れてしまい、気付かないがすでに豊かな環境の中にあると思う。

市民センター化については、公共施設再配置計画に基づき、原則的には支所周辺の建物を活用した機能複合化を想定している。高瀬町地区は「みとよ未来創造館」を拠点とし、三野町地区はJRみの駅前に機能複合化し、他5町地区は支所周辺を拠点とし、市民センター化する。

公民館と図書館の複合機能整備

は、ハードのみならずソフト部分での複合化を進める。市民センターも含め公民館、図書館が一体となった地域コミュニティ拠点の充実を図る必要があると考える。平成28年度に図書館再編整備基本構想ができ、平成29年度に基本計画を策定する予定だが、市民の声をより反映できるように、ワークショップをぜひ取

り入れて策定したい。また、公民館についても、今後の方向性を検討すべく調査研究を予定しており、複合機能についても検討したい。公民館と図書館の連携は当然大切なことであり、いろんな館相互の情報共有・発信をしながら、市民の力も借りながら機能を高めていきたい。

2 公民館を核とした地域学習と幼児教育の連携・融合について

質問

平成29年度施政方針には、就学前教育環境整備の抜本的な充実を図るとともに、幼児教育の充実に取り組むとあり、国に先んじて幼児教育保育料の無償化を行い、就学前教育環境の抜本的な充実を図るとある。形としての制度は示されたが、施策として打ち出されておらず、人材が育つための手段が見えてこない。

三豊市では、すでに子育て支援活動や地域体験学習など、親子連れで活動に参加し、楽しいひと時を過ごすという姿も普通に見られる

ようになってきている。一方、保護者と幼児が一緒になって遊べる公園がないとか、安心して親子で過ごせる公共施設がないという声も聞かえてくる。それは、多様な地域学習の情報が必要に人々に確実に届いていないことが原因ではないかと感じている。

そこで、公的な公民館に、市内の地域学習情報を集め、審査し、情報を取捨選択することで、市が認めた活動であるというお墨付きにより、市の推進する三豊市独自の地域学習による市独自の幼児教育になると考える。

公的となった既にある地域学習情報を、学校や保育所等を通して保護者、家族へ周知できることで、市民が感じている情報不足や理解不足に悩む地域活動の活性化を実現できると考える。誰もが得をするこの取り組みについて考えを問う。

答 弁

【教育長】

子どもを地域で育てることを我々もつと見直す必要があると考えている。議員指摘の地域学習と幼児教育の連携・融合は、幼児の育ちを支える家庭と地域社会を指していると思う。そこでの教育が豊かになれば、幼稚園等の教育が充実するという好循環が生まれると考えら

れる。その方法について、公民館が中心となり、これまで実施してきた地域学習等という視点から見直し、整理し、それらの情報を子どもを介して家庭に届けることの、労力と効果について公民館と話し合いをして検討していきたい。

【市長】

幼稚園教育の無償化をきっかけに、就学前教育について市民の皆さんとともに考えようというのが、私からの大きなメッセージだ。幼児教育の内容も、新しいことにチャレンジしていくこうと思っている。

市民の日常生活の中の公民館情報に、教育の要素があることを教育会議においても提案し、話し合っていくきたい。

2017年12月

【議会一般質問報告】

1 待機児童対策としての保育施設利用者支援について

質 問

保育施設には、認可保育所と認可外保育所の区別があるが、それは制度上のことであり利用者にとつては、日々の保育が満足のいくものである

ことが一番重要だ。三豊市の保育所事業は認可と認可外が同じ土俵で保育ニーズに对应しているのが現状で、言葉を換えれば認可外なくして

は市の保育事業は成立しないともいえる。国の制度改正で利用者負担に差が生じている。「子育てするなら三豊が一番」を目指す三豊市として、早期改善するべきだと考える。次の点について質問する。

●(1点目)第3子の保育料は認可の場合は第1子が就学しても無料となるが、認可外の場合は第2子の扱いとなるため、無料とならないことの不公平の改善

●(2点目)認可外保育施設運営補助金の増額による、安定した保育環境の確保

●(3点目)認可外保育施設が一定基準を満たしたものを三豊市認証保育所と評価づけることによる、利用者の安心感の確保

答 弁

認可保育所も認可外保育所も、三豊市の子どもを安心安全に育ててくれており、認可外保育所についても非常にありがたく感謝している。その点を前提にして答弁したいと思います。

①認可外施設での第3子無料化は、平成27年末に国が第3子の原則無料化の方針を打ち出したが、認可保

育所を対象としたもので、認可外施設はそれから外れており、認可外施設利用者への支援には対応できていない。平成29年に向け、保育所、幼稚園の保育料、教育費の軽減を検討しており、これまでの予算を整理、廃止、合理化することで、その原資を生み出し制度設計中であり、その中で対応していきたいと考えている。

②平成27年より市内の乳幼児1人に対し、月額千円の補助金を交付しているが、昨今の保育士不足の状況下にあつて、地域のさまざまな保育ニーズに対応してくれており、さらなる保育環境の確保のために、これについても制度設計の中で現在検討しているところだ。

③自治体独自の認証を与えることで、利用者は認可外保育施設であつても安心感が生まれることは考えられる。ただ、認証保育所になつても制度上は認可外施設のままであり、公的支援が入るものではない。今後は、それぞれの事業者と施設整備についても、国の支援が入る認可施設への移行も含め、協議していきたいと考えている。



学校図書館と 子どもたちの学び

昨年(2016)6月に開館したばかりの岡山県瀬戸内市民図書館も

みわ広場で開催される講演会があり、図書館の役割と機能に関わる本質に迫る内容であると感じ、参加することとしました。「場」としての学校図書館と子どもたちの学びに寄り添って」の演題で、京都女子大学付属小学校司書の坂下直子先生から、ご講演をいただきました。問題提起として、「学び」とは? 「場」とは? 学校図書館にしかできないことは? についてお話をさせていただきました。

「学び」とは?

「教科書を教える」と、教科書で教えるの違いは大きい。「教科書で教える」のならば、これこそ学校司書の出番だ。今「問と答えの間」が短くなっている。「問(あいだ)」に学校司書の役割が大きいといえる。特に、学びに向かう力の高い子、すなわち読める子が偏差値の高い学校へ進学している。

「場」とは?

学校図書館の機能は、①読書センターとしての役割:「今の私にぴったりの、おもしろくて、グッとくる本を紹介してください。」の問いに答える「場」②学習センターとしての役割:「国語科の学習に必要な本を用意してください」の要望に応える「場」③情報センターとしての役割:「カラスはどこから飛んでくるのか知りたいです。」の疑問に答える(レファレンス)「場」

学校図書館にしかできないことは?

学校の中のサイドプレイスとなることは、学校図書館にしかできないことだ。

瀬戸内市民図書館もみわ広場は、

図書館機能だけでなく市民全ての世代の集いの場となる、コミュニケーションスペースとなっています。このような環境が、新たな交流と新鮮な学びを導き出す力となっていることは間違いないと、感じたのでした。

地方創生は子どもも会から始まる

毎年のように開催されている行事

の二つに、香川県内の子ども会の育成のために設立されている「一般社団法人香川県子ども会育成連絡協議会」が主催する、「香川県子ども会指導者・育成者研究大会」があります。今年で第52回をむかえ、平成29年1月15日(日)に、県教育会館ミューズホールで開催されました。

今回の研究大会は、選歴を目前にした私にとつて、思いがけない新たな経験をした貴重なものとなりました。それは、パネル討議のパネリストとして、子ども会の活動や役割について、日ごろ思い考えていることを発言することができたことでした。

【パネル討議】

**楽しもう子ども会
これからの子ども会とは!**

コーディネーター

幼保連携型認可こども園
サンシャインこどもの森施設長
(香川県子ども会育成連絡協議会専門委員)

西山徹氏

パネリスト

①高松市立古高松小学校学校評議員
(香川県子ども会育成連絡協議会専門委員)

横山喜一郎氏

②三豊市子ども会育成連絡協議会会長
(香川県子ども会育成連絡協議会副会長)

詫間政司(私)

③高松市立古高松校区子ども会元会長

末原俊幸氏

④多度津町子ども会育成連絡協議会会長

氏家恭子氏

私は市の会長と県の副会長という立場から、子ども会の存在価値や組織の運営とあり方について発言させていただきました。

三豊市子ども会育成連絡協議会では、昨年、市内の単位子ども会役員の全員に、子ども会活動の必要性などについての、存在意義を問うアンケート調査を実施しました。その結果、現在の子ども会組織が、県、市、町、校区・単位子ども会の4層のピラミッドとなっていることによる、分かりにくさと不透明さに対する不信感にあることが明らかとなりました。

必要性が高いのは、「単位」と「校区」の82%で、「町」66%、「市」55%、「県」40%となっており、活動の現場から遠いほど必要性が低くなっています。毎年変わる役員さんにとって、このような何層にもなった組織がわからないのも当然で、遠い存在の役割を訳も分からず押し付けられているという「やらされ感」が、必要性を感じにくくさせているのだと考えています。

私が今回のパネリストとして最も伝えたかったのは、子ども会組織以上に、活動そのものの必要性でした。東日本大震災の避難所で、自分たちにもできることで役に立ちたいと、行動の先頭に立ったのが、子ども会活動で体験を積んだジュニアリーダーの子どもたちだったという事実です。子ども会活動は学校、地域、家庭を活動の場とするといった、全ての条件が備わっているのだということに気付いて

ほしいのです。

私は、「地方創生は子ども会から始まる」と思っています。なぜなら、子どもたちは子ども会活動を通して、地域の自然や歴史・文化、施設、人といった、地域資源のすべてを駆使した活動とともに成長していくのですから。地域を誇りに愛する人として、地方を支えるのだと信じているのです。



第1回 永康病院調査特別委員会

三豊市には、永康病院と西香川病院の2つの市立病院があります。両院ともそれぞれの特性を生かしてこれまで市民ニーズに応える医療を担ってきました。しかし新臨床研修医制度の影響による医師不足や、少子高齢化、診療報酬制度の改定など、大きな環境の変化により、全国の公立病院と同様に医療環境の見直しが必要となっています。

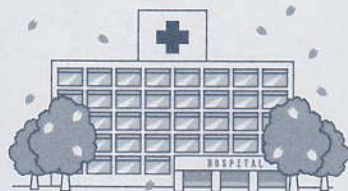
このような中、平成27年3月に総務省から、前公立病院改革プランの目的である「経営の効率化」、「再

編・ネットワーク化」、「経営形態の見直し」に加え、「地域医療構想を踏まえた公立病院の役割の明確化」の4つの視点による新公立病院改革ガイドラインが公表されました。現在、これを受け両院では、平成28年10月に県が策定した香川県地域医療構想と、平成24年3月に策定された「三豊市の地域医療のあり方に関する答申」を踏まえ、「三豊市新公立病院改革プラン」の策定が進められています。（三豊市新公立病院改革プラン案を引用しています）

三豊市議会永康病院調査特別委員会は、永康病院から提案された「永康病院建物更新計画」に対し、その内容を精査し、三豊市のこれからの医療を担うための施設整備の調査をするべく、平成28年12月22日に設置されています。私が委員長を務める当委員会の第1回委員会が、平成29年1月30日（月）に開催されました。

- 1 現在地での建替えによる存続、移転改革による統合存続、廃止等のいくつかの方向性で、専門コンサルに調査を依頼する
- 2 現在地での建替えによる存続、移転改革による統合存続、廃止等のいくつかの方向性で、専門コンサルに調査を依頼する
- 3 専門コンサルによる報告書が出されるには6か月ほどかかるため、先ず、永康病院の現地視察を実施する
- 4 他地域の公立病院への視察研修は、時期も含め検討することとする

調査の方向性が定まりました。研修会や先進地視察研修等を計画し調査を進めていきます。



三豊市の課題解決のヒントか!? 「先進地に学ぶ。」

会派清風会
視察研修
報告 1

図書館



冊に増やす計画だ。職員数は10名で、その内訳は司書9名と学芸員1名（正職5、臨職5）で、年間運営費用は約1億円を予算化している。

計画構想の段階から、運営方針や企画設計にかかわってきた嶋田館長の図書館に対する情熱が、施設環境づくりと運営に生かされている。基本理念は「もちより・みつけ・わけあう広場」だ。ここから愛称の「もみわ広場」となっている。基本理念を実現するための7つの指針は、

- ① 市民が夢を語り、可能性を拓げる広場
- ② コミュニティづくりに役立つ広場
- ③ 子どもの成長を支え、子育てを応援する広場
- ④ 高齢者の輝きを大切にする広場
- ⑤ 文化・芸術との出会いを生む広場
- ⑥ すべての人の居場所としての広場
- ⑦ 瀬戸内市内の魅力を発見し、発信する広場だ。

次に、図書館が誕生するまでの市民参加は、図書館整備の計画づくりに市民参加によるワークショップと「しよかん未来ミーティング」を12回開催し、「基本構想」を策定した。これを参考に「基本計画」や「実施計画」を展開している。

瀬戸内市には「もみわ広場」の他に2つの図書館がある。合併前の旧町から2館とも公民館図書館として、地域に密着したものだ。そのため、地域コミュニティ拠点として充実している。また、2つの図書館及び保育所、幼稚園、高齢者施設を巡回する移動図書館によって、市内全域に図書館サービスネットワークを展開している。また、地域学習機能として、図書と郷土資料をあわせて展示するほか、地元出身の世界的な系譜り人形師竹田喜之助を顕彰するなど、郷土展示機能による地域学習の推進も行っている。他に、「学び直し」のための生涯学習拠点事業や、学校図書館支援、市民との連携による「おはなし会」や「絵本ライブ」、「図書館基金」の設立などの活動を展開している。

ピカピカの最新図書館であるため、「明るくてきれい」であることから滞在型の利用となっており、小中高生も学校帰りによく立ち寄っているとのこと。さらに、「もみわ広場」を市民と一緒に育てていくという願いで、図書館友の会という市民の会が結成され「もみわフレンズ」の名がつけられたとのこと。

会派清風会
視察研修
報告 2

病院

2件目の訪問先は、瀬戸内市立瀬戸内市民病院です。

瀬戸内市の市立病院は、平成16年の3町合併により、邑久病院（一般病床80床）と牛窓病院（一般病床82床）の2病院体制となった。

新病院開院までの経緯は、平成19年、邑久病院を瀬戸内市民病院へ改称し、牛窓病院を同牛窓分院へ改称。平成20年、公立病院改革プラン実行計画により入院機能を集約し、2病院の合計病床数を162床から52床減らし、110床とした。それに併せ牛窓分院は牛窓診療所にし、無床とした。平成27年、老朽化している瀬戸内市民病院（旧邑久病院）の改築工事に着手。その後、牛窓診療所を施設

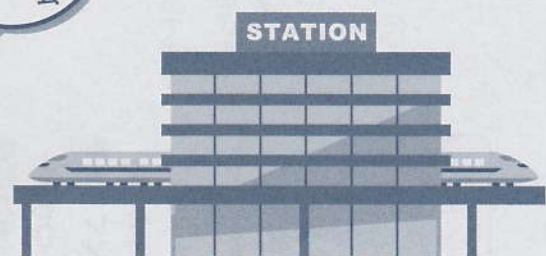
三豊市議会会派清風会の視察研修が、2月4日（火）に日帰りの日程で行われました。訪問先は、岡山県瀬戸内市の「市立瀬戸内市民図書館」及び「市立瀬戸内市民病院」と、高梁市の「JR備中高梁駅舎及び図書館を核とした複合施設」の、計3か所でした。

市立瀬戸内市民図書館「もみわ広場」は、市長のまちづくりは人づくりであるとの考えから、市の直営で建設運営されている。オープンして半年が過ぎたばかりの最新の図書館で、総事業費9億6千万円余、延床面積2,400㎡弱で、収蔵冊数は現在9万冊ほどだが、10年後を目標に20

老朽化と医師等の不足により廃止。この年から建築工事に着手し、平成28年10月、新病院開院となった。

瀬戸内市民病院は市内で唯一の救急病院であり、市内の高齢者対象の民間病院(234床)と連携し、市民医療を担っている。現在、診療科目は「内科」「外科」「消化器科」「循環器内科」「呼吸器内科」「脳神経外科」「整形外科」「小児科」「皮膚科」「眼科」「耳鼻咽喉科」「リハビリテーション科」「麻酔科」「心療内科」の14科で、常勤医9名、非常勤医20名体制だ。開院後の病床稼働率は60〜65%から80〜90%となり、外来は170人/日から200人/日を超える実績となつている。今後、予防医療の重要性から集団検診に力を入れていく方針で、マンモグラフィ等装置の導入を進めていく計画だ。

研修に出席して下さった三河内病院事業管理者と、竹内病院長のお互いの経験を活かした連携により、しっかりとした理念と基本方針によって、経営・運営が明確に示されています。今、三豊市では、公立病院改革プランが策定されるとともに、市立永康病院の建替え計画が提案されています。人材が集まり、定着し、育つ公立病院でなければならぬとの思いが、確固たるものとなった研修でした。



会派清風会
視察研修
報告 3

駅

視察研修報告の3件目は、岡山県高梁市における「JR備中高梁駅舎及び図書館を核とした複合施設」です。

高梁市は、岡山県倉敷市の北の中山間地域にあり、平成16年に1市4町が合併し、新しい高梁市として誕生し、人口32,000人足らず、面積500km²ほどとなっている。合併により市内に5校の高等学校を有することとなったことに加え、吉備国際大学、高等看護福祉専門学校等があり、人口の1割に相当する3,200人程の学生が学ぶ「教育のまち」となった。

高梁市のJR備中高梁駅は、人口の半数近くが住む中心市街地であり、通勤・通学等で4,000人/日近い乗降者が利用している、市の玄関口だ。

JR備中高梁駅に隣接する図書館を核とした複合施設は、平成28年12月に完成しており、核となる高梁市図書館は平成29年2月4日(土)に開館した。延べ床面積:3,882㎡(図書館部分:2,251㎡)、蔵書数:12万冊、建設費:約20億円。

公設民営により民間活力の導入をして、カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)CCCとのパートナーシップで、市民がより利用しやすく、人が集い、学びを得られることを目指している。委託料は1億6千万円/年で、運営におけるコンセプトは「未来につなぐ図書館」で、市民の要望や願いが形になっている。

- スターバックスコーヒー店が入っており、本を読みながら楽しめる。
- 蔦屋書店を併設。
- 図書返却場所を5か所から19か所に増加。

高梁市は、日本の地方における若者にとつて、魅力あるまちづくりとは何かを示しています。その出発点は、ここに住む人が自らのまちの本質と特性に気付き、このまちだからこそできることは何かを、見つめ続けることから始まっています。複線のJR伯備線で、岡山まで30分の位置にある学生の集う備中高梁駅。若者が自然と集う場となる駅周辺。「天空の山城」備中松山城を原点とする城下町の歴史と伝統、文化。どれをとっても誰もが気付かなくしてはならない、当たり前のことこそがこのまちの最大の魅力なのだと気付いたのです。それを頼りに、がむしゃらに実践したのでした。ここまで来るには様々な困難があつたと推察されますが、柔軟な発想と揺るがない信念で推進してきた関係者に敬意を払いたいと、心から思っています。小手先ではない、このまちに本当にふさわしい計画とは何かを考える、貴重な研修となりました。

- 年中無休で365日開いている図書館で、開館時間は朝9時〜夜9時まで。
- こども図書館を独立させ、子どもづれでも気兼ねなく過ごせるフロアを設置。
- 市民の要望の多かった学習室を設置。

教育は地域社会が広く見守るもの!無関心ではおれず参加を。
「教育カウンセラー養成講座:愛媛県松山市で開催」を受講しました。

※於:松山市総合コミュニティセンター

愛媛会場
第2回
講座

平成28年
10月29日
土曜

「対話のある授業...」いのちを育てる関わり方「指導者に必要なカウンセリング能力とは?」:住本克彦先生(「新見公立短期大学 幼児教育科教授」)

「対話のある授業」で基本的なことは、「あらかじめ話す時間を決めておく」とか、「聞き取りやすい声の大きさ」といった双方向のやり取りをすることから始まる。

タイムリーな話題を取り入れ、分かる授業、おもしろい授業、ためになる授業を実践することで、自尊感情の醸成に努力してほしい。問題行動のある子どもたちのその背景を知れば、解決の手立てが見つかる。「愛がすべてを開く」と信じて、対話のある授業で自尊感情を育んで欲しい。

指導者として不登校の子どもたちから学んだことがある。

- ① 受け止めてくれる人の存在の必要性
- ② 好きなことに没頭することの大切さ
- ③ 人生は思い通りにならないから軌道修正できるということだ。また、荒れている学校の原因の背景に発達障害がある。根底に「認めてほしい」「ほめてほしい」の欲求がある。誕生日に祝ってもらえない人の自殺者が15倍多いという調査結果があるように、かけがえのない人の存在は不可欠だ。

絵本は最高の教材となる。指導者として、なぜ

この絵本を紹介するのかを話すことで、指導者自身の「自己開示」となる。また、「自己主張」も必要だ。そのついでに泣くことがある。思いつきり泣くことで「自己開示」できる。絵本を題材に対話を始めてみる。絵本によって子ども目線に合わせることが可能になる。

「いい言葉が心を強くする」がある。死と向き合う人に、ぜひ伝えてほしい言葉がある。「今日お前が無駄に過ごした日は、昨日死んだ誰かが死ぬほど生きたかった明日なんだ」 死にたいという人は、本当は死にたくないのだ。命を大切にすると子とはどのような子なのかをお話します。

- 人のおかげで大きくなれたと感じている子
- 得意なことがある子 (他者との関係による自尊感情)
- 良いところがあると思える子
- 努力すると報われると思える子 (報われるとは限らないが、努力しないと報われない)
- チャレンジする子 (夢を持てる子・未来志向性)などに気付いている子だ。

住本克彦先生は、私の大学時代の下宿の先輩です。まさに40年ぶりの再会を果たすことができました。終わりの言葉で、涙ながらに私の参加を喜んでくれました。自らが泣くことで自己開示し、私に感激の思いを伝えて下さいました。ありがとうございました。

www.8108.jp

「人々が活々と交流し、支え合い、安心して暮らせるまち」貴方は、そんなまちに暮らしてみたいと思いませんか? このサイトは、そのような理想のまちを地域住民自らの力で創り上げようと言うサイトです。

□ 志保の会 □

【連絡先】〒769-1507 三豊市豊中町岡本270
 TEL 0875-56-6113 FAX 0875-62-5914
 E-mail info@8108.jp
 ブログ:たくま まさしの日記帳

